

伊那市 50 年の森林（もり）ビジョン策定委員会議事録	
会議名称	第 6 回 伊那市 50 年の森林（もり）ビジョン策定委員会
開会日時	平成 28 年 2 月 19 日（金）午後 4 時 00 分
閉会日時	平成 28 年 2 月 19 日（金）午後 5 時 00 分
場 所	伊那市役所本庁 4 階 庁議室
出席者	<p>策定委員アドバイザー 独立行政法人 森林総合研究所 理事 鈴木 信哉 林野庁中部森林管理局 南信森林管理署長 花村 健治</p> <p>策定委員 委員長 信州大学農学部教授 植木 達人 独立行政法人森林総合研究所 領域長 山田 茂樹 高遠地区 伊東 一 伊那地区 加納 ます枝 高遠町地区 伊藤 のり子 株式会社 DLD バイオエネルギー事業部 木平 英一 有限会社 平澤林産 代表取締役 平澤 照雄 NPO 法人 伊那谷森と人を結ぶ協議会 理事長 稲邊 謙次郎 上伊那森林組合参事 森 敏彦 上伊那森林組合参事 バイオマス・エネルギー室長 寺澤 茂通 国土交通省中部地方整備局天竜川上流河川事務所 砂防調査課長 大森 秀人 長野県上伊那地方事務所林務課普及係長 塚平 賢治</p> <p>事務局 7 人</p>
欠席者	<p>策定委員 副委員長 上伊那木材協同組合 理事長 都築 透 伊那市西春近諏訪形地区 区を災害から守る委員会 副会長 酒井 卓実 NPO 法人 森の座 理事長 西村 智幸</p>
議 事	(1) 意見募集の実施経過及び対応について (2) ビジョン最終版の説明 (3) 平成 28 年度以降の取組について (4) その他 (5) 委員長総括 (6) 市長あて答申
資 料	(1) 伊那市 50 年の森林（もり）ビジョン策定委員会市長あて答申進行表 (2) 意見募集の実施経過について (3) 平成 28 年度の事業計画について (4) 伊那市 50 年の森林（もり）ビジョン（冊子）
議 事 録	1. 開会

(委員長)

今日は、最終回という事で、この案を市長にお渡しするという事になっている。パブリックコメントも終了し、意見も出てきたようだ。最後の仕上げという事で、皆様の合意を得て市長に渡したいと思っている。

(委員長)

それでは、今日の議題は3つ用意している。

一つ目が、意見募集の実施経過及び対応について、二つ目がビジョン最終版の説明、三つ目が平成28年度以降の取り組みについてが、今日の主な議題である。まず、一つ目、意見募集の実施経過及び対応についてお願いします。

(事務局)

1 実施経過について

・実施期間

1月20日から2月10日まで

・周知の方法

①伊那市の公式ホームページ

②文字放送

・計画書の公開について

①公式ホームページの方へ掲載

②本庁の耕地林務課、高遠・長谷総合支所の窓口において公開

2 寄せられたご意見について

2月10日50代の女性。伊那市西町区に在住の方である、お一人の方から二つの意見を頂戴した。まず①として実行計画6-5、今回のビジョンの117ページにあたるかと思うが、農業との連携が急務とあるが、我が家も農家なのでこのことにはとても興味がある。農家が農地を管理することで、すでに景観の保全に一役かたりしていると思われるし、獣害対策も含め緩衝帯の整備など気になる。伊那市の農業者協議会で取り組んでみるとかどうか、というご意見である。もう一個は、実行計画1の部分、全体を通して80ページ以降ということだが、大人を対象とした自然環境講座がいい。大人の為の森の教室みたいなものがあればいいと考えていた。あと、ますみヶ丘平地林を市民が森林と触れ合える場になるといいなと思う。というご意見を頂戴した。こちらの対応については、またこちらの委員会でご検討いただければと思うが、事務局の考え方についてご説明申し上げたいと思う。今説明させて頂いたように、いただいたご意見については、計画の修正や変更というものではなく、今後ビジョンを実施する中でのご提案と判断している。貴重なご提案として今後、こちらを進める中で実施の方で反映させていきたいと思っている。意見についてはそのように考えているという事で、また委員の皆さんでご検討いただければと思う。これら頂いたご意見、それからこの委員会としての対応については、今後、今日お決めいただくので、計画そのものとともにホームページ上において、この

件については公開することであるので、ご了解いただけるということである。よろしく
お願いしたい。

(委員長)

では、そのように基本的に事務局が提案されたような内容で進めて行きたいと思う。

続いて、二つ目の議事に入る。ビジョン最終版の説明ということだ。事務局の方から
ご説明お願いしたい。

(事務局)

12月に行われた委員会の後に、少し大きく変わったところのみご説明させていただく。

まず、表紙を捲ると、委員長とアドバイザー様よりお言葉を頂戴している。それと 2
ページであるが、伊那市の魅力でまたまた、住みやすい街の下のほうに画面では記載さ
せていただいているが、子育て世代にピッタリな田舎部門というところで 2 年連続 1 位
ということになっている。伊那市の魅力がまたここで一つ足されたということで、記載
させていただいている。

大きく移り、第Ⅱ部をお願いする。第Ⅱ部の 75 ページから。12月6日の折には、言
葉として出ていなかったが、山（森林）が富と雇用を支える 50 年後の伊那市というかた
ちとして記載させていただいた。その下に新たに「ソーシャル・フォレストリー都市、
伊那市」という言葉を付け加えさせていただいている。それについては 77 ページにコラ
ムとして、ソーシャルフォレストの説明をさせていただいている。こちらについては、
ソーシャルフォレストという言葉、社会林業と日本語で訳される、またそういう概念と
いうかたちで、主に国際的な社会の中で使われている言葉である。これを担当の植木委
員長のお言葉にもあるように、伊那市独自のという視点でソーシャルフォレストという
言葉を使わせていただいた。

少し大きく飛ぶ。114 ページのコラムのところに、木材産業との連携というかたちで、
棺桶とワイン樽の写真を記載させていただいている。また 117 ページには、伊那市の商
店街の皆様で活動されている、KEES プロジェクトの内容を記載させていただいてい
る。

一番大きく変わった点であるが、131 ページ。意見募集の折にも記載がなかったが、ま
ず一点目、若者たちの新たな視点ということで開設させていただいている。そしてもう
一つ、女性参画、男女共同ということで 131 ページから 132 ページにかけ記載している。
女性の皆様方の繊細な目線を、今まで男性社会だと思われていた森林・林業の分野に是
非と一緒に参画していただき、50 年の森林ビジョンに今後、男性社会からの脱却も今回
必要なんだということで記載させていただいた。以上が大きく 12 月から、また意見募集
の後変わった内容である。

(委員長)

地域住民が森林の保全や管理を自ら係わり、森林資源の利活用は地元の諸産業と協働
的に進め、そこから生まれるさまざまな便益は地域に還元され、自然や生物多様性の保

全と人々の暮らしに寄与する森林・林業活動を地域社会が総出で実践する、というような意図を込めて、巻頭文に載せさせていただいた。そういうこともあり、多少12月から内容はつけ加えたところもある。また、女性という問題がこの中に弱かったという事もあり、その部分も強調して入れたところである。そういうことより、とりあえずこういうような方向性で、50年間のビジョンということで作って進めていきたいと思っている。何かご意見やご質問等あるか。

無いようなら、皆様、この2年半議論してきた結果として、この伊那市50年の森林ビジョン、こういうことで市長に答申するということがよろしいか。特に反対意見がないので、どうもありがとうございます。今後、これをベースとして伊那市の森林・林業、そして地域貢献に役に立てばと思う。よろしく願いいたします。

それでは平成28年度以降の取り組みについてということで、耕地林務課長さんからよろしく願います。

(事務局)

こちらの森林・林業の周知については、概要版等作る予定があり、新年度になったら市民の皆さんにお配りしたいと思っている。また、計画そのものについては、市のホームページ等で周知し、広報していきたいと思う。それから今、委員長先生からお話があったように、今後、50年の森林ビジョン推進委員会まだ仮称ではあるが、こちらのほうを設置して具体的な事業を計画の樹立と、実行管理を行って行きたいと考えている。こちらとしては、こちらに掲載された構想を、実行計画の分も策定する必要があるので、樹立と実行管理のための推進委員会を設置して取り組んでいく。構成については、こちらの皆さんということになるが、またお願いする場面があると思うが、是非ご協力いただければと思う。任務としては、基本ゾーニングを行う必要があるので、そちらの設定と具体的な計画のほうを実施していただきたいと思っている。特記事項としまして、こちらの方にも掲載してあるが、色々な業種の皆さんと連携を進めたいと考えているので、そういったことに配慮していただきたいと思うので、よろしくご承知おきいただければと思う。28年度の事業計画については以上だが、現在こちらのビジョン策定の分と連動してというか、参考にしながらこういった事業を私ども展開しておるので、またご承知おきいただければということである。田舎暮らしモデルハウスということで、キットハウスの建築を進めてまいったということである。またここに記載されている様々な事業を、平成27年度において展開したと言う事であるので、こういった事業を受けながらビジョンに盛られた事業を展開していきたいと考えているので、またご協力いただければということである。新年度以降の事業計画については、以上である。

(委員長)

ただ今事務局より、このビジョンを達成する為に来年度から推進委員会、というものを作って行って、ひとつひとつのビジョンを実現する力をつけていこうというご意見である。これについていかがか。ただビジョンができるだけでは意味がないので、やはりこれをどうやって実現していくんだという推進委員会なるものが必要だと思っている

が、そういうことでよろしいか。はい、どうぞ。

(アドバイザー)

これはこれでいいが、公共建築物木材利用法のときも、市町村が計画を立てるのだが、実際には全てがその通り行かないというのが、市町村の中の実は共有ができないと言う事が非常に大きなポイントだと思う。ようするに耕地林務課で考えても他の部署では何も考えないと言う事が非常に起きるので、このビジョンを周知と書いてあるのは、市民向けに書いてあるが、まず出だしは市役所職員全員が、このビジョンの中身を理解するという、職員向けの周知の研修会みたいなものをやらないと、実は市全体で取り組んでいるイメージにならないのではないかと、というところが私は、是非、事業的な、28年度が始まるにあたって、そここのところを一番やっていただければと思う。いわゆる他の部署にいれば、教育関係とか商工とかいたときに、このビジョンの中身をわかっていて事業を推進するのかどうか、というところが非常に問題だと思うので、是非市役所職員向けの研修会をやっていただくのが、私は大事かなと思う。

(委員長)

貴重なご意見をありがとうございます。事務局、よろしいか。こういうご意見があったということで、是非とも実現する方向でご検討いただきたいと思っている。他に何かないか。特になければ、28年度ももしかしたらこの中の委員さんも関わっていただくことになるかもしれないが、また見守っていただき、ご協力いただければと思う。

(アドバイザー)

もう一点いいでしょうか。この中で、ブランド化のところ、伊那松茸とか、伊那松とか、標記が漢字になっているが、こういうブランド化の時には是非市民の方から意見を聞いてブランド化したほうが、非常にブランドとしては、これは物としてのブランドとして書いてあるので、ブランド名をつけるときには是非公募みたいな形でやっていただければと思う。漢字ばかりでは硬すぎる。うけないかもしれない。

(委員長)

ありがとうございます。市民が基本的にはこの50年の森林ビジョンを実現する重要な原動力であるので、そういったところも含めて、ブランドの公表とそれから名称の募集をするということで、是非ともお願いしたい。

他に何かないか。

(事務局)

この後の進行について

(委員長)

今日の協議事項は以上である。

最後に委員長総括ということであるが、私の方で最後に簡単に述べさせていただく。本当にあつという間の時間だったが、皆様の協力を得て感謝している。この案は50年の展望であるので、50年間色あせないような内容であるということを前提として議論してきたつもりである。しかし今後時代の変化とともにどのように変わっていくか解からない。従ってこれをベースとして50年間やっていくということだと思っている。そのためにも色あせない為にも、重要なポイントをこの中に流し込んだつもりだ。ひとつは伊那市の魅力、最大の魅力は何なのかということをよくよくここで述べているという事だ。それから木材の利用を積極的に行っていくということ、このことは大変重要な事だと思っている。それによって資源の循環システムを作り、これが伊那市の大きな特徴になっていく。特にカラマツはもちろんであるが、今まであまり利用されていないアカマツ、それから広葉樹にも視点をここに持たせたというところ、これが重要なポイントだと思う。それから単に林業だけじゃない、川中、川下の加工・流通、消費者の事まで一つの流れとしてみていくという点は、報告書の重要な点でもあり、またもう一つ横の連携として、林業だけではない、農業、観光業、それから先ほどもおっしゃった物作り産業等々と、横の連携を結んでいくということも、このビジョンの中に折り込ませてもらったところだ。従って、縦の流れと横の連携を強化する事によって、それらが伊那市の市民レベルから盛り上げていく、このことが大変重要な特徴であろうかと思っている。こうしたことが伊那市独自の社会林業、ソーシャル・フォレストリーを生んで育てていって、そして50年後には全国の中でもたぶん、農山村社会の一つのあるべき姿として、モデルとして、高い評価を得るようなビジョン、提言であろうかなと、そういうことを願って作ったところである。是非、皆様こういったこともご理解いただき、周りの方々あるいはこれからの伊那市の林業、あるいは林産業をどうするんだと言った場合には、一応これに振り返っていただき、是非とも皆様方一人ひとりが主人公になって、この伊那市を盛り上げていっていただければと思っている。最後に市民目線ということで、皆様には色々とお願ひした部分もある。特に専門部会という大変な部会を設けていただき、そしてそれぞれで皆様のご意見をいただき、それをこの中に流し込んだところである。本当に良い物ができたと思っている。心から感謝申し上げるしだいである。どうもありがとうございました。

(事務局)

どうもありがとうございました。それでは若干お待ちいただきたいと思います。

策定委員会の協議をありがとうございました。お待たせいたしました。

それではただ今より、伊那市50年の森林ビジョン策定委員会より、市長宛の答申を行う。始めに植木委員長よりご挨拶をお願いします。

(委員長)

一昨年から続けてきたこの委員会、やっと今日が最後の日で、日の目を見る提案書ができたと喜んでいいる。私自身、大変恵まれたメンバーに恵まれまして、活発なご意見そ

れから考え方をいただいた。何とかその市民レベルのお考えをこの中に溶け込ませたことは嬉しいなと思っている。特に、50年という長いビジョンであるので、色あせない提言であるということ、私自信を持ってここで申し上げたいと思う。特に伊那市独自の社会林業、ソーシャル・フォレストリーという、これを育てていただき、全国のモデルとなるような農山村社会を築いていただければと思っている。本当に皆様には心よりお礼を申し上げるとともに、是非伊那市長さんにはこの提言を踏まえて、これから長い50年ではあるが、ひとつの目標として自治権の努力をお願いしたいと思う。以上です。

(事務局)

ありがとうございました。それでは委員長より市長宛ビジョンの答申を行っていただく。

(委員長)

白鳥市長さん、どうかよろしくお願ひいたしたい。

(伊那市長)

はい。ありがとうございました。

(事務局)

それでは白鳥伊那市長より、ご挨拶をお願いしたい。

(伊那市長)

50年の森林ビジョン、この厚い冊子をいただいた。この厚さよりも中身の重さを感じた瞬間であったけれど、一昨年の10月から2年近くに渡って、それぞれの立場でご審議いただいて、こうした物ができたということで、本当に感謝申し上げたいと思う。私の前々から、森林に対してどうあるべきかという自問自答する時間が随分あった。外材が入ってくるとか、あるいは林業の担い手がまた減っているとか、技術が継承できていないとかいう話を含めて、山はどうあるべきなのか、林業はどうあるべきなのかということ、ずっと考えながらきたわけであるけれど、その中でこの50年の森林ビジョンということで、皆様方へ、諮問したわけである。経過6回であるけれど、恐らく他の色々な勉強会があって、また現地を見たりしたと思う。本当に日本を代表する、またこの地域を代表する皆様が、こうした立派な報告書を策定していただいたというふうに考えている。

50年という時間、何で50年なのかということも最初言われた。100年じゃないのかという話もあったが、私達が手がける近くで遠い数字が50年かなという思いがあり、私達は恐らく50年後はいないと思う。でも、私達よりも少し後ろの世代はいるわけであるので、そうした皆さんが、こういう思いを常に継承しながら、山に対して色々な取り組みをしていってもらえれば、また木材に対して色々な取り組みをしていってもらえればと

いう願いもこめられた 50 年である。

50 年の森林ビジョンという森林（もり）に対する表現と、もう一つは昨年からはじめた「暮らしの中の食」、これも小中学校で農業というものをきちんと生活の中で位置づけて、循環させましょうという事の取り組みが伊那市では始まっている。これも何年かかけてこうした「暮らしの中の食」というのに入っていったわけであるが、農業分野では「暮らしの中の食」、林業分野においては「50 年の森林ビジョン」という、二つがいよいよ動き出すということで、私としても、市を挙げて、また地域を挙げてしっかりと取り組みをしていかななくてはいけないというふうを考えているわけだ。本当に難しい、先ほど植木委員長からもあった、日本を代表するような、そんなフレーズもあり、当然私達はそうしたことも踏まえて、この 50 年の森林ビジョンというものを実証していくという決心をしている。是非、こうした素晴らしいものと、また植木先生を中心としてやっていただいた委員の皆様、また森林総研の鈴木理事、また山田先生、森林管理署の花村署長さん、また国土交通省、民間の皆様、本当に多くの皆様の英知の結晶であるので、これを必ずや一步一步、木の成長と同じように、如実に物にしながらか進めてまいりたいと思う。本当に素晴らしい、素敵なものを作っていたいただいたので、これを次は実行に移すということ、更には今日まで係わりをもっていたいただいた委員の皆様方が、これで委員会はとりあえず閉まるわけですが、係わりはこれからしっかり持っていただきたいと私の思いである。

共に、この伊那から、伊那谷から日本の林業を変えるような、そんな取り組みとなるようにご協力をこれからもお願いしたいということを申しまして、お礼の言葉とする。ありがとうございました。

(事務局)

それでは委員の皆様、またアドバイザーの皆様、二年間に渡りましてご協力ありがとうございました。一言ずつ頂戴したいと思います。

(委員)

ビジョン策定にあたり、大変お世話になった。この伊那市というところは、様々な、非常に色々な多様な方が森林に係わっている、本当に素晴らしい市域だなと感じたところである。今回このビジョンの策定にあたり、私自身も一緒になって勉強させていただいたけれども、市民の皆様もこのビジョンをご覧になられて、より一層多くの方が、この伊那市の森林に係わりながら生活、暮らしを充実していただけたら大変嬉しいのかなと感じたところである。本当に委員会の方に参加させていただき、ありがとうございました。

(委員の代理)

本日は代理という事で、出席させていただいた。直接このビジョンの策定に係ったわけではないが、このビジョンの内容を見させていただき、現状とか課題等、実行計画がわかりやすく、まとめられていて、我々が携わる砂防事業としても、考えていかなければ

ばならないということを感じた。本日はどうもありがとうございました。

(委員)

この会に参加させていただき、誠にありがとうございました。主に森林の生産力と林業経営の向上という分野で、色々議論を進めてまいったけれど、私、日頃森林・林業に係る仕事をしている中では、日頃中々見えない討論の課題が、我々の立場として見えてきたというような感じがしている。特に他産業との連携が、林業の独り立ちということではなくて、この地域の中で、お話にあったソーシャル・フォレストリーという概念からも、そんなところを大事にしていくべきだというようなところからも、一つのこの先の我々森林に係る者にとっての羅針盤が見えてきたというふうにも考えている。ソーシャル・フォレストリーは、住民による住民のための町ということであるけれど、我々森林組合においては、森林所有者による森林所有者のための組織であるので、まさにこの50年に向けての林業に我々の日々の活動をしっかりと移していく事が重要だなというふうに考えているので、今後ともよろしくお願ひしたいと思う。大変お世話になりました。

(委員)

今回このビジョン策定委員会に参加をさせていただき、誠にありがとうございました。

よく山のことは、森林は100年の経緯に経って考えなくてはいけないとよく言われている。そんな中で50年という話を今回させていただく中で、やはり継続する事が非常に大事だろうなと思っている。森林組合ではご承知の通り、木質ペレットの生産を通じて、間伐材を使って燃料として使っていくという部分を含め、森林を有効に活用していくという取り組みをしている。この伊那市におきましても公共施設等に、ペレットボイラー、あるいはストーブ等が導入されており、更に消費が増えていこうと思っている。供給に対しては万全にきしていきたい、いる、という事も含め、森林組合としても間伐を進める中で、森林整備と共に間伐を進める中で、材料を確保し安定的な供給体制を作ることをここにお約束させていただいて、御礼の言葉とさせていただく。大変ありがとうございました。

(委員)

本当に2年間がこの間のように思うのだが、今の子供達を見ると、僕らが使命として、今の森林ビジョンの原点である、本当に50年後にこうあるべきだという信念を貫くという事を、僕らはやっていかなくてはいけない、本当に感じていて、今森林組合さんも含めて林業事業体は、わりあいと単発的というか、あまり輪がなかったのだが、今年、去年から非常に連携を作って、事業のやり方とかそういうことも連携取ったやり方で、それと目線を、我々市民の目線より、事業体の目線だったのを、この委員会をやらせていただき、皆さんの感じるものを、非常に感じたものだから、今、本当にわかりやすい林業を皆さんに話せたり、伝えたり、木材が今こんな状態だとか、こういうふうやっていこうということを今進めている。この委員会を益々また継続していただいて、より一層、今の生まれてきた子供達が50年後に、よかったなと思うような伊那市にしたい

きたいと思うので、是非ともこれを継続していただきたいと、力強い会にしていきたいと思います。どうもありがとうございました。

(委員)

本当に専門家の方たちに混ぜていただいて、ありがとうございました。森に対する目線が違ってきたのは、やはりこの会に参加させていただいて、違う大きな私の中の変化だったと思うが、良い森かな？手を入れた森かな？あとどんな恵みがくるかな？と色々感じたので、身近なものから、家族から、孫から、それぞれ伝えて行きたいと思う。ありがとうございました。

(委員)

本当にこの会の中では一番遠い存在だったのかなと思っているが、中々、先ほど女子会とか林業女子というような言葉が出てきたが、女性が林業に関心を持つというのは非常に難しい、これからどうやって女性達の関心を引きつけていくのかなというのを考えながらいる。この委員会に入らせていただいて、とにかく専門家の皆さんのご意見をお聞きする事ができたということが、すごい収穫だったなと思う。どうもありがとうございました。

(委員)

今回に参加させていただいて、色々勉強になりました。ありがとうございます。この会で色々議論していく中で、私も、皆さんもと思っているが、やはり何が良いと言っても、課題山積と言うか、課題がいっぱいあるなと再認識したということじゃないかなと思う。だからこそビジョンが出来たけれど、これをいかに実行していくかというところが、やはり今後、それが無いと意味が無い、そこが大事じゃないかなと思っている。その中では、最近林業とか、若い人たち、結構色々な人が、細々ですが色々な動きをしたり、伊那市というのはそういう意味では、民間というか結構良いプレーヤーになる、揃いつつあるのではないかなと思う。だからこそ伊那市のリーダーシップというか、森林・林業というのは公共的な部分があるので、民間だけでは上手く回っていかないところがあると思う。であるから是非このビジョンを実行していく、その中でも強い伊那市のリーダーシップを期待していきたいと思っている。ありがとうございました。

(委員)

私の生業は桜守という仕事であるので、桜を手入れするには、やはり 20 年、30 年先を見ていかなければ、枝 1 本も切れない状態というのが、厳しい現実がある。であるから 30 年先というのはその間、二世帯係る人間が必要だ。50 年となると、二世帯が三世帯必要になる。であるから、何を言いたいかという、それにはやはり森作りも大事で、人作りが大事。もう半分くらい私の仕事は人作りだ。そういうふうにして係わり合いのある大事な仕事かなと思って、その辺をこれから先も進めて行きたいと思っている。

(委員)

色々とお世話になりました。森作りに対しましては、非常に奥深いものがあるけれども、素晴らしい森林のビジョンが出来て、どうかこれを市民の多くの皆さんが、見ていただき、現状把握していただき、興味を持っていただきたいと思います。この中で目標に向けて事業を展開していきたいと思う。これからが一番大事だと思うので、これから事業展開を多にやっていただきたいと思いますので、よろしく願いいたしたい。どうもお世話になりました。

(委員)

この策定委員会に参加させていただく事になったわけだが、非常に安易な気持ちでお受けして、最初の会議に出てきて反省した事を今思い出している。以後 6 回において、色々な皆様のご意見をお聞きしながら、また自分では自分なりの思いを伝える事が出来たかどうかは、はっきり記憶にはないが、是非ともこのビジョンの策定が出来た事、自分自身も大きな勉強になった事を今思っている。先ほど何人か申し上げたように、このビジョンが本当に目標に向かって進んでいくことを願っている。本当にお世話になりました。

(委員)

市民の立場でこの会に参加させていただいた。その都度新しいテーマ、課題に向かって、それぞれの先生方のご意見を聞く中で、大変勉強しながら進んできたのかなと思う。私は西春近の者だが、西春近でもこういった内容を勉強しながら今までテーマを持って研究してきた経過もある。特に信州大学の木村先生や、岡野先生達に大変お世話になってきている。つい先日も、内川先生にご指導いただく機会があり、たまたま私、この話をしたわけであるが、少し内容が難しいのかな？と言ったわけだが。このことを、やはり地域でもひとつの課題として、勉強していったらどうかと、提案してある。底辺を広げるという意味でも、このものがしっかり地域に目指していくというかたちに進めていけたらいいなと思っている。

(委員)

皆様 2 年間本当にありがとうございました。私達は色々物を考えてそれを書いたものにまとめるという仕事をよくしているが、その上で申し上げたいことがひとつあり、2 年間やって感じたことは、やはり市民の構想力は凄い、ということだ。委員の皆さんを中心に、日頃森林・林業について考えている事であるとか、ふと思ったことなど、それをベースとして突き詰めて考えていって、こんな立派なビジョンという、目に見える、手に触れられるものが出来たわけだ。これはやはり大変なことだと思う。ただ、明日からは同じ目に見える、手に触れられるというものでも、実際の森作り、そして社会となり、伊那市作りということが始まるということだ。これは、とても大変な事かもしれないが、とても楽しみなことだとも思っている。どうもありがとうございました。

(アドバイザー)

今回このビジョンを策定されたわけだが、私ども南信森林管理署が国有林を管理する立場であり、今まで伊那市さんとは、ニホンジカ対策で非常に深いつながりがあったところだ。今後、当然ニホンジカ対策もやるが、こういう伊那市 50 年の森林ということを見据えた、国有林としての取り組みが必要だと思う。そのためには、先ほど鈴木理事からもご意見があったように、伊那の市役所の皆さんがちゃんと研修会を周知という話があったが、私達もこのビジョンを職員一人ひとりにちゃんと理解、周知させて、伊那市の森林、国有林を含めた、どう分けていくか、また連携することはどこがあるのか、またその部分でどうなのか、そういうこともきちんと署内、皆で考えながら今後取組んでいきたいと考えている。みなさん、策定おめでとうございます。二年間大変ご苦労様でした。

(アドバイザー)

50 年の森林ということで、非常に長い時間がかかるが、私の田舎の村で自分で山を見ていると、何となく変わらないような気がするが、よく考えると子供のときは全面まだ山にオカモ？と言うか、畑の上に稲を植えていたところに木が植わって段々大きくなっているが、毎日見ていると、毎年見ていると変わらないように感じる。ということは、50 年前の伊那の森林はどうだったかと考えると、実は今見ている風景とはまた違う山だったと私は思う。そういう意味で、50 年後を見据えてまた新たな展望を開いていかなければならないのではないかという風に思っている。私、この中に寄せてというところに書いてあるが、やはり日本の近代化ということは、中央の物を真似するというところから始まっている。しかし学校は永久校舎ではなかった、と書いてあるけれど、そういう意味で新たな地域の産業で、お金を回すということが地方創生の基本的ポイントだと思うので、森林組合の総会に理事さんが行って「林業は儲からないな」「山は荒れているな」と言いながら、同じ人が農協の総会に行ってバンバン鉄骨の建物に判子を押し、というのが今までの流れであるが、そういう意味では、地域一体になってもう一回考えていく必要があると思う。ちなみに“森林”で木が五つであるから、10 掛けると 50 年ですので、一応そんなことで、だから 50 年の森林ということで、お祝い申し上げたいと思う。どうも、おめでとうございます。

(事務局)

ありがとうございました。また本日は、二年間後尽力いただいたわけだが、3 名がご都合により欠席ということであるが、大変ご尽力いただきましてありがとうございました。また、事務局として、長野県林業コンサルタント協会参事の松澤課長さんに、二年間大変お力添えをいただき、松澤課長の力なくしてできなかったと思っている。それでは、松澤課長。

(事務局)

二年間大変お世話になりました。

私、信州大学農学部出身だが、この伊那に来ると、今は長野に住んでいるが、伊那に来ると、帰ってきたとずっと思う。ほんの少し私が学生時代を過ごした伊那の町のためになったなと言う気持ちで取り組ませていただいた。とても拙文でまた、稚拙な内容があったかと思う。それを皆様方から非常にご指導いただき、やっと皆様方のお手元に形として形相させていただくお手伝いをさせていただいた。どうも色々お世話になりました。ありがとうございました。

(事務局)

委員長にご挨拶いただき、最後に市長にもう一言いただいて終わりにしたいと思いません。

(委員長)

もういう言葉も無くなっているが、実はこれの意味にはもう一つ重要な意味があるなと思っている。と言うのは、これ自身が伊那市から発するもだが、日本の一地域から、世界の環境問題、水問題、食料問題、そういった大きな問題に貢献するんだぞ！という意思の明確さを表した伊那市の確約書みたいなものだ、私は思っている。地域からそういったことに世界に貢献するんだという、そういうことだと私は思っている。是非これが何とか50年経つ前に、こういった仕組みができれば大変嬉しいなと思う。最後でございますが、本当にありがとうございました。

(伊那市長)

皆さんのお話を聞いて、いよいよ実行に移すという段階になるので、漏れがないように確実に、毎年毎年進化するような、そんな取り組みをしていきたいと思う。その為にも、市内にいくつかの森林に係るNPOだとか、団体があるので、そうした皆さんと連携をしっかりとってやるということ。そして、次の世代の子供達を含めた教育だとか、そんなところにも踏み込んで、いくつかのジャンルごとの計画をしっかりと立ててやっていくということが、今までの話を聞いて改めて感じられた。何よりも身近に木がある生活が当たり前なんだという、あるいは森に依拠して生活があるようなことが普通なんだという、そんなことがこの伊那の地から、全国に発信していきたいという風に思う。改めて皆様方に感謝申したい。ありがとうございました。

(事務局)

皆様、どうもありがとうございました。
それでは、これをもちまして、伊那市50年の森林ビジョン策定委員会、市長への答申を終了させていただきます。どうもありがとうございました。

———— 終了 午後5:00 ————